

4 こうありたい知立市の未来（改訂後）

1) 子どもが育つ環境や子育てと生活を両立する環境のよさから、小学生の子どもを持つ家族が知立市で暮らしたいと考え定住する。

- 子育て中の親が希望する暮らし方や働き方がかなう。
- 放課後児童クラブや相談体制の充実により子育てに対する安心感が高まっている。
- 学校教育やスポーツ、キャリア教育など、質の高い学びを受けられる環境が整っている。

2) 名古屋で働く人が生活するまちとしてのブランド力が高まり、知立駅をはじめとする鉄道駅周辺の居住人口が増加する。

- 駅周辺には日用品購入や食事ができる場などができ、近隣に暮らす人たちの生活利便性が向上する。
- 名古屋までのアクセス優位性と利便性の高い生活環境、子育て環境のよさから住みたいまちとして注目される。
- 名鉄名古屋本線・三河線の高架化が進み、沿線のブランド力が一層高まる。
- リバースモーゲージ等の活用により中古住宅の流通が活性化し、若い世代の住宅の選択肢が増える。
- 古い住宅は店舗や飲食店等にも利用され、個性的で魅力的なスポットが市内各地に創出される。

3) 知立駅周辺の整備をきっかけに、魅力的で便利な地域になり、そこで働く人や立ち寄り人が増える。

- 自身の希望に応じた働き方に合わせた起業にチャレンジする人が増えている。市内にコミュニティビジネスが生まれ、様々な形態の小売・サービス、観光事業等が登場する。
- 魅力的な店舗が立地するとともに、イベント等が定期的に開催され、駅周辺に行けば何か楽しい体験ができると思える雰囲気が醸成される。
- 知立駅から通勤・通学バスに乗り換えて通勤・通学する市外の人や知立駅から通勤・通学する市民が駅周辺で時間とお金を消費する。
- 豊富な人財が魅力となり、様々な業種の企業が新たに進出する。

4) 様々な人が自己実現したり、交流を深められる場や機会が新たな投資により創出され、まちに対する誇りが育まれる。

- 公共施設や知立駅周辺整備で生まれる広場等が積極的に利用され、趣味や学び、市民活動等を行うために多くの人を訪れる。
- 市民相互の新たな交流が促進されることで、市民主体による多様な活動を生み出すエコシステムが形成される。
- 子どもを持つ世帯が集まり交流できるイベントが開催される等により、子育てを応援するまちとしてのイメージが定着する。

5) コンパクトなまちの特性を生かして、公共交通や自転車・徒歩による移動がしやすくなるとともに、ゆっくりとした移動を楽しめるまち、遠距離移動に頼らない暮らしが形成される。

- 宅配サービスの普及や自転車等のシェアリングシステム導入等により自家用車がなくても困らない生活環境や移動手段が構築されている。
- まちなかに休憩スポットや立ち寄りスポットが点在し、散策や自転車によるゆったりとした移動を楽しむことができ、健康づくりに関心を持つ人が増えている。

6) 高齢者や単身者、外国人はじめ、すべての市民が孤立することなく、地域社会とのつながりを感じながら安心して暮らしている。

- 文化や習慣、価値観の違いを理解しあい、あらゆる人たちがお互いを認め合っている。
- 様々な社会参加の機会が提供されるとともに、誰もが気兼ねすることなく参加しやすい雰囲気や創出され、人との出会いやつながりが生まれている。
- 全ての市民が地域社会の一員であることを認識できている。

7) 地域の歴史や文化を継承するとともに、昔からあるものを大切にすることで、持続可能な風格のあるまちになっている。

- 地元のまつりが盛り上がり、将来の担い手が着実に育っている。古くから受け継がれてきたまちなみや地域活動を次の世代に繋ごうとして活動する市民が増えている。
- 現代の生活スタイルにあわせてリノベーションを行いながらも、成熟した街並みは保全されている。
- 地域の課題を自分ごとととらえ、その解決を目的として活動する市民団体やコミュニティビジネスが増加している。

8) 知立市で暮らす魅力やまちのよさが広く認識され、知立市民であることを誇りに思う人が増えている。

- SNSやマスメディアによる情報発信を通じて知立市の魅力が拡散され、まちの魅力に対する認知度やイメージが向上する。
- これまで知立市に対する思いのなかった市民が、知立市で暮らしている価値に気づく。その価値を更に発信する。
- 子どもたちが、知立市を理解し、好きになっている。知立市に対する興味が高まり、様々な地域活動に参加している。

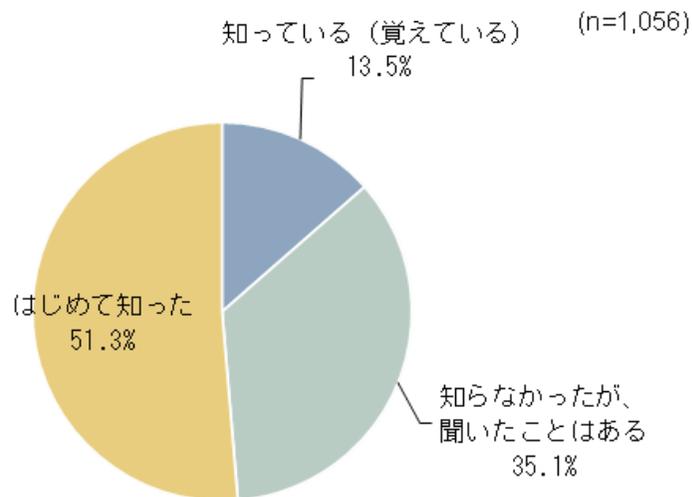
9) 地震や集中豪雨などの自然災害や犯罪に対する不安を感じることなく、安心して暮らせるまちになっている。

- 地域の防災体制が充実するとともに、市民一人ひとりが災害発生時の行動を認識しており、大規模災害に対する不安が少なくなっている。
- 防犯体制や交通安全対策が充実している。

2. 将来像について

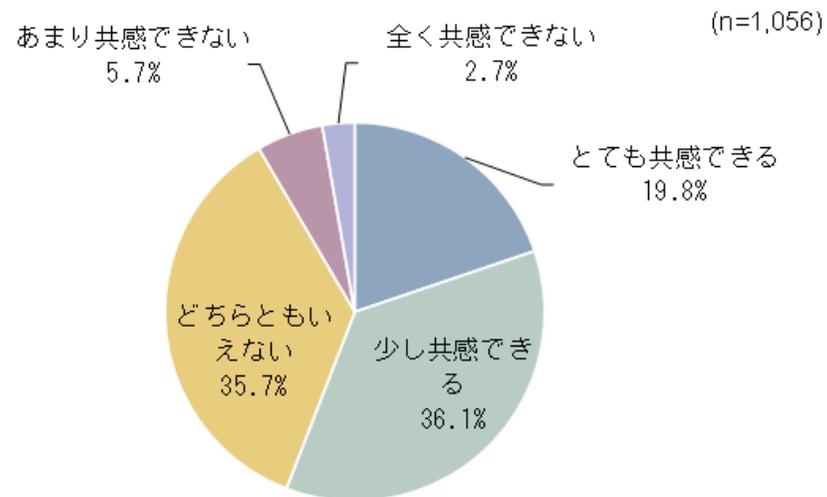
将来像の認知度

- 第6次知立市総合計画における都市の将来像「『輝くまち みんなの知立』～安らぎ・にぎわう 住みよさを誇れるまち～」を知っているか
- 「知っている（覚えている）」「知らなかったが、聞いたことはある」は、48.6%



将来像への共感

- 将来像に共感できるか
- 「とても共感できる」「少し共感できる」は、55.9%



『未来のまちづくりに関するアンケート調査』（令和5年6～8月実施）

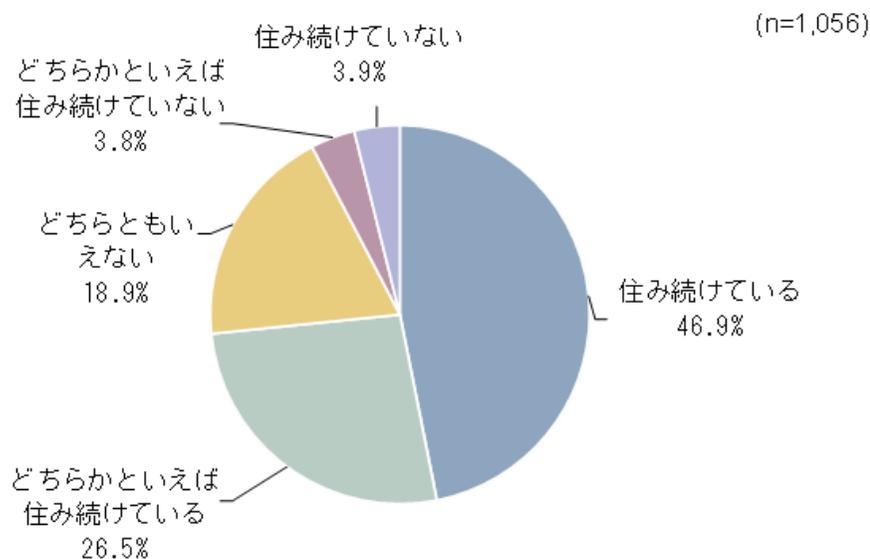
➤ 以下の理由から、第7次総合計画において新たな将来像を設定する。

- 将来像の認知度が5割弱、共感が5割強であり、市民がさらに共感できる将来像を設定する必要がある。
…「こうありたい知立市の未来」のイメージを集約したものへ。
- 知立駅周辺の大規模事業の進展や完成後のまちづくりを見据えるタイミング、まちの転換期にある。

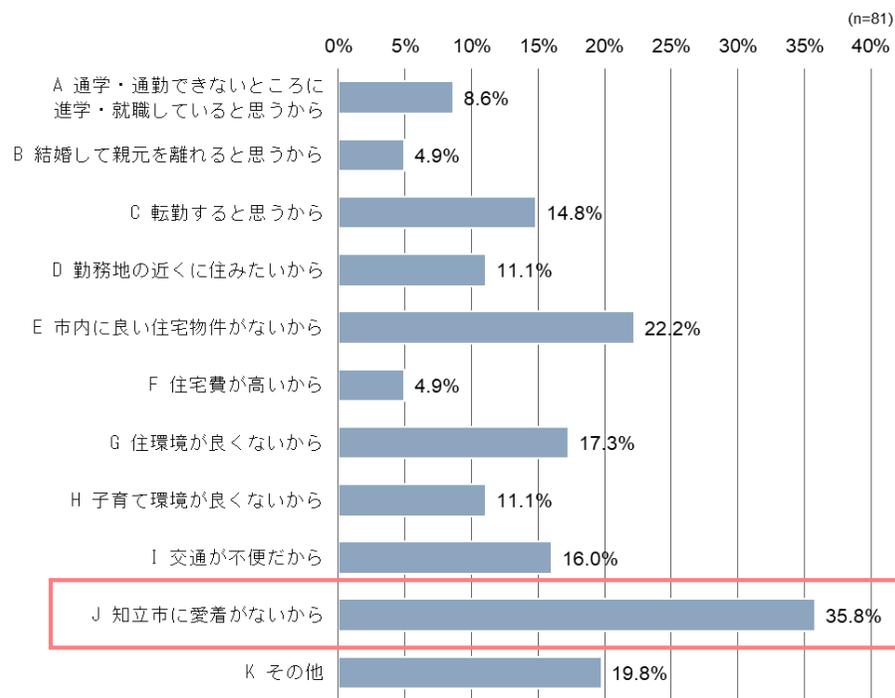
2. 将来像について

定住意向

- 10年後に知立市に住み続けていると思うか
- 「住み続けている」の割合が最も高く46.9%である。
- 「どちらかといえば住み続けていない」「住み続けていない」の割合は、7.7%である。



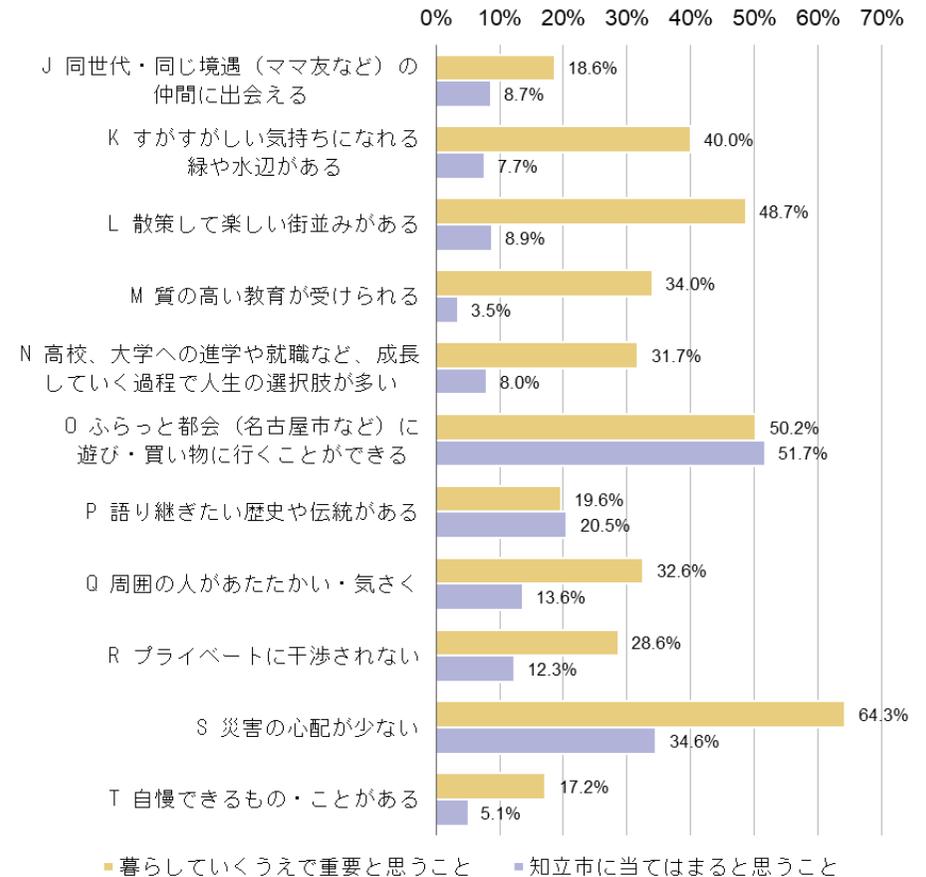
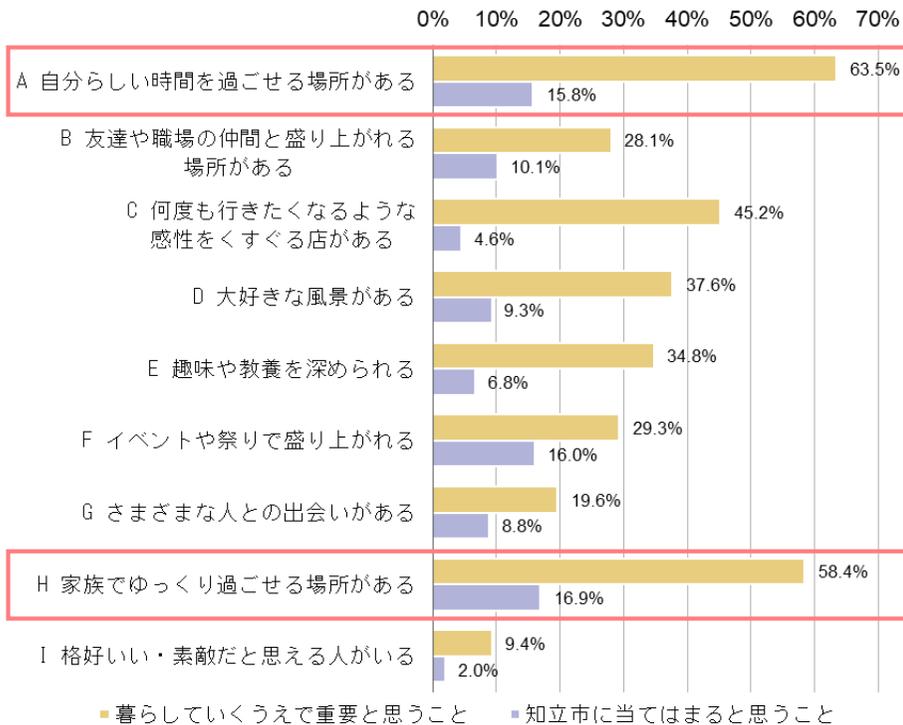
- 「どちらかといえば住み続けていない」「住み続けていない」と回答した理由
- 「知立市に愛着がないから」が最も多く、割合は35.8%である。



2. 将来像について

暮らし

- 暮らししていくうえで重要と思うこと・知立市に当てはまると思うこと
- 「自分らしい時間を過ごせる場所がある」「家族でゆっくり過ごせる場所がある」が重要とされているものの、当てはまると思う人が少ない。



2. 将来像について

第7次知立市総合計画における都市の将来像（案）

にぎわう・つながる 自分らしさをかなえるまち 知立

「にぎわう」

- 知立駅周辺の大型事業「100年に一度のまちづくり」を起点に、まちが発展していく様子をイメージ

「つながる」

- 交通の拠点として他都市とつながり、人やものが行き来して発展する様子や、市民同士がつながり、一緒にまちを育てている様子をイメージ
- 知立市の歴史・文化が承継されて、未来へつながる様子をイメージ

「自分らしさをかなえる」

- 生活利便性の向上や市民同士のつながりが活性化し、市民一人ひとりが望む多様なライフスタイルを実現できる様子をイメージ
- 多様性への理解・受容が進んでいる様子をイメージ